



夏休み前に済ませたい

オフィスの大掃除

オフィスの大掃除だなんて、想像するだけでなんだか身構えてしまいますが、ポイントさえつかめば大丈夫。夏休み前に自分のデスク周りや共有部分をきれいにし、気持ちも新たに仕事をスタートさせましょう。



フリーライター
結城 彩子



ステップ1

目の前の物を仕分ける

大掃除の基本は、なんといつてもいま目の前にある物を「仕分ける」こと。まずは「必要」か「不要」かに分類します。不要なものはゴミですから、きちんと分別して捨てます。次に、必要なものを「いつも使う」「ときどき使う」「使うかもしれないが判断に迷

う」の3つに分けます。判断に迷う物は「保留ボックス」にすべてまとめ、半年後（年末の大掃除や年度末などでも可）に見直すことにします（図表1）。

棚を見てください。ファイルに閉じられたままのその書類、本当に必要ですか？ データにして残せば新たなスペースが生まれま

れ曲がったクリップなどはありませんか？ 文房具は進化しています。使い勝手のよい新しい物に交換してみるのもよいでしょう。

仕分けができれば大掃除はほぼ終わり、といっても過言ではありません。物が少なくなれば、掃除も整理整頓もしやすくなります。

ステップ2

便利グッズでラクラク掃除

次に掃除。初期段階の汚れは表面に軽くのついている状態なので、ほこりをはらい、水拭き・乾拭きをするだけで、洗剤はいりません。しかし、時間が経つほどに汚れは変質し、落ちにくくなります。多くの汚れには、マイクロファイバーのタオルや古布に中性または弱アルカリ性の洗剤を薄めたものを含ませて拭き、仕上げに乾拭きをします。

オフィス内の汚れでもかなり目立つ、弱酸性の手アカや皮脂汚れもこの方法で掃除をします。マウスやキーボードなどのデスク周り、ドアノブ、手すり、スイッチなどは意外と汚れています。ただし、手アカのついたパソコンやテレビなどの液晶画面は表面のコー

ティングが取れてしまうので、静電気防止のため電源を切り、専用のクロスで拭き取ります。

給湯室のシンクや電気ポットなどの水アカ、石けんカスといったアルカリ性の汚れには弱酸性の洗剤を使います。冷蔵庫や電子レンジなどキッチン家電は洗剤を使えないものも多いので、普段から使用後に拭く習慣をつけましょう。

掃除グッズも便利になっていきます。洗剤不要の超極細繊維を使いたふきんや掃除手袋、静電気を除去しながら掃除ができるOAブラシ、細かい隙間に有効なエアダスターなど種類も豊富。デスク周りからOA機器、オフィス家具、ガラスなどの汚れを1枚で拭き取れるウエットティッシュタイプのクリーナーもおすすめです。

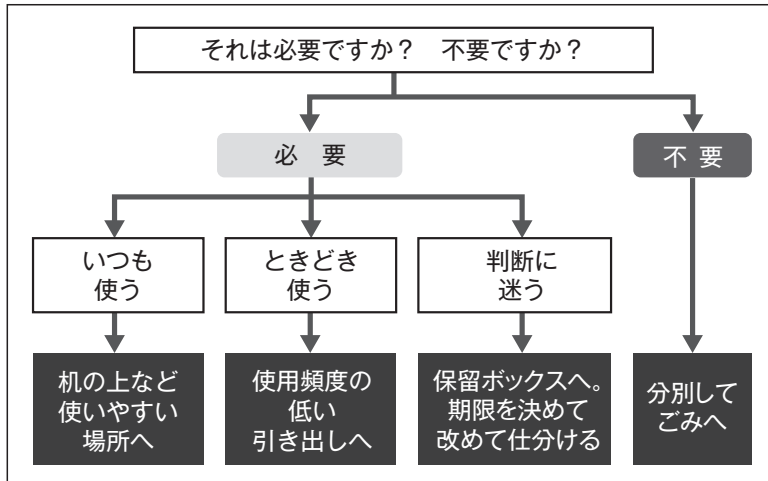
ステップ3

収納の「見える化」で使いやすく

仕分けをし、掃除も済んだら、収納方法にも気を配りましょう。

よく使うものは卓上に。ペンや定規、カッター、メモ帳など厳選したものだけを1か所にまとめて収納します。浅い引き出しには、仕切りを使って文房具のストック

図表1 物を仕分けするときの手順（ステップ1）



図表2 ごみを仕分けするときの手順（ステップ4）

・可燃ごみ、不燃ごみ、リサイクル資源、粗大ごみに分ける (各自治体によって細かな分別あり)
・ごみが大量になる場合は、許可を受けた一般廃棄物処理業者※を探し、委託
・粗大ごみは、許可を受けた産廃業者※を探し、委託
・テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機類、パソコンは各種リサイクル法にのっとり処分。リサイクルできるものは適切な処理ができる中古買取業者へ委託も検討

※業者の情報は、各自治体のHPを参照

など。深い引き出しには、使用頻度の低い書類ファイルや本などを立てて収納します。引き出しの中は、見やすい、取り出しやすい、を日頃から心がけていると物であふれません。

プリント類は重ねず、テーマごとにバインダーをついたり、ファイルボックスを使ってインデックスを貼ったクリアファイルに立てて保存します。バインダーなら書類が挟めなくなったら整理をす

るサイン。クリアファイルは、右から新しいものを入れるクセをつけておけば、時系列で処分するタイミングがわかります。

ステップ4 ごみを仕分ける

いよいよ最終段階、ごみの仕分けです。自治体によって異なりますが、ごみは、大きく「可燃ごみ」「不燃ごみ」「リサイクル資

源」「粗大ごみ」の4つに分けられます(図表2)。

荒川区を例にすると、少量のごみ(45ℓのごみ袋2〜3袋)であれば、「事業系有料ごみ処理券」を貼るだけで自治体のごみ収集で処分できますが、大量になる場合は、認可を受けた一般廃棄物処理業者を探し委託します(業者の情報は、各自治体のHPに掲載)。

最終処分場のスペースの問題や焼却炉の能力の向上などで、不燃ごみ扱いとされていたものが、いまでは可燃ごみとして扱われるものもあります。会社と社員が住んでいる地域とではその内容も異なりますから、勘違いでごみの分別をしてしまうこともあります。大掃除の前に、最新の情報を社内です共有することが大切です。

特に、オフィスから大量に出るコピー用紙や新聞紙、雑誌、段ボールなど、「リサイクル資源」になるごみはきちんと分別をしましょう。古紙は、その品質や特徴に応じて異なる紙の原料に使われます。雑誌に新聞紙を混ぜて出していないませんか？新聞はリサイクルされると新聞用紙やコピー用紙に。雑誌はお菓子の箱や書籍、段ボールに生まれ変わります。

コロナ禍で増えた使用済みマスクは、ごみ袋をかぶせた専用のごみ箱に捨てると安心です。いっぱいになる前に密閉し、可燃ごみに捨て、ごみ捨て後は石けんで手をよく洗います(環境省のHP参照)。ごみを出したその先の、ビルクリーニング業者や清掃業者の分別の手間や感染症対策にも意識を向けたいものです。

また、事業所から出た家具など粗大ごみの処分は産業廃棄物に分類されるので、許可を受けた産業廃棄物業者を探する必要があります(各自治体のHP参照)。そしてテレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機類は家電リサイクル法、パソコンはパソコンリサイクル法の対象商品なので、ルールに沿って処分をします。とはいえ、ごみの廃棄にはお金がかかります。OA機器、オフィス用品などでリサイクル可能なのであれば、適切な処理ができる専門の買取業者に買い取ってもらうのも手です。

ごみの最終責任は、ごみを出した事業者にあります。ごみの処分方法は各自治体によって細かな決まりがあるので、普段の掃除とは異なる大掃除の前によく確認をしておく必要があります。

ゆうき あやこ 旅行雑誌、生活情報雑誌の出版社で編集者として勤務後フリーに。コロナ自粛で普段できなかった場所の掃除や後回しにしていた物の仕分けができ、引越以来一番すっきりとした状態で生活中。